

第8回 交通基本法検討会

東京メトロのバリアフリーへの取組み

東京地下鉄株式会社 代表取締役副社長 鉄 道 本 部 長 奥 義光

東京メトロの主なバリアフリー施設について





券売機

バリアフリー整備の基本方針



- ・エレベーターホームから公共通路までの全駅1ルート整備乗換ルートの整備
- ・エスカレーター 主要ルート及び乗換ルートの整備 但し、上記以外のルートにおいても各駅の個別事情を考慮し整備
- ・可動式ホーム柵等 ホーム上の安全性向上のため、可動式ホーム柵等の導入
- ・駅施設のバリアフリー バリアフリーガイドラインに基づき、「多機能トイレ」「傾斜型自動券売機」 「自動旅客案内装置」等の整備
- ・車両のバリアフリー バリアフリーガイドラインに基づき、「車いすスペース設置」「車両間転落防 止保護柵」「自動放送装置」「車内案内表示器」の整備

サービス向上活動



バリアフリー基礎研修

・障がい者に対する接遇向上のための 基礎研修

【実施回数】 平成20年度 5回 平成21年度 5回









エレベーターによる 1ルート整備推移

H14~H19は全168駅(半蔵門線押上開業による)

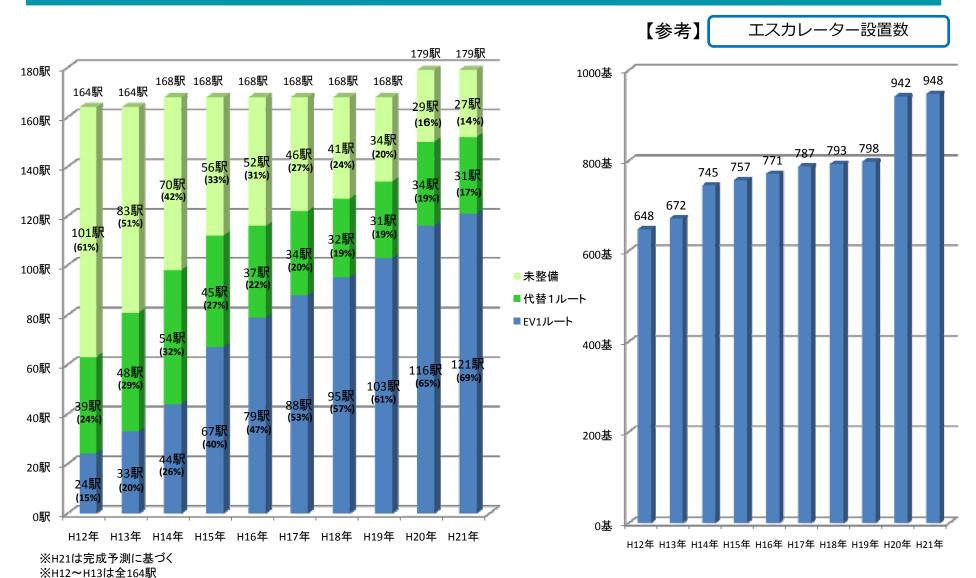
全179駅(副都心線開業による)

※1ルート整備駅中には移動円滑化基準不適合(窓なし扉)の59駅も含む

H20~

※()は全駅数にしめる整備率

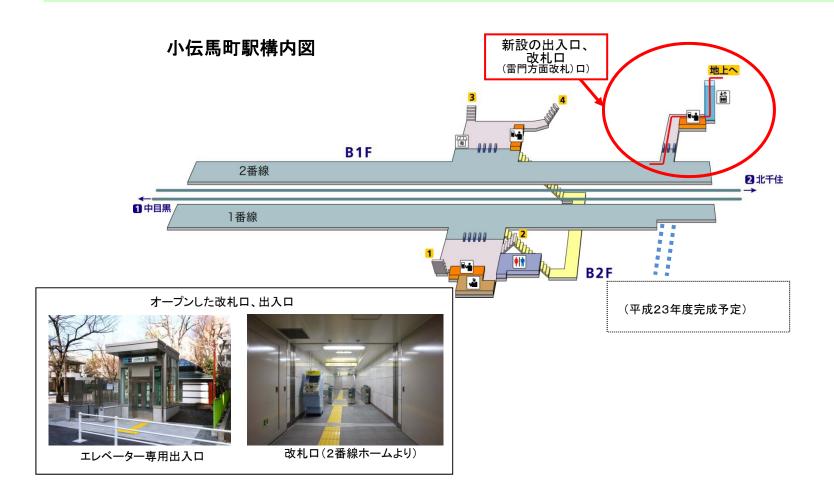




エレベーター整備上の主な課題



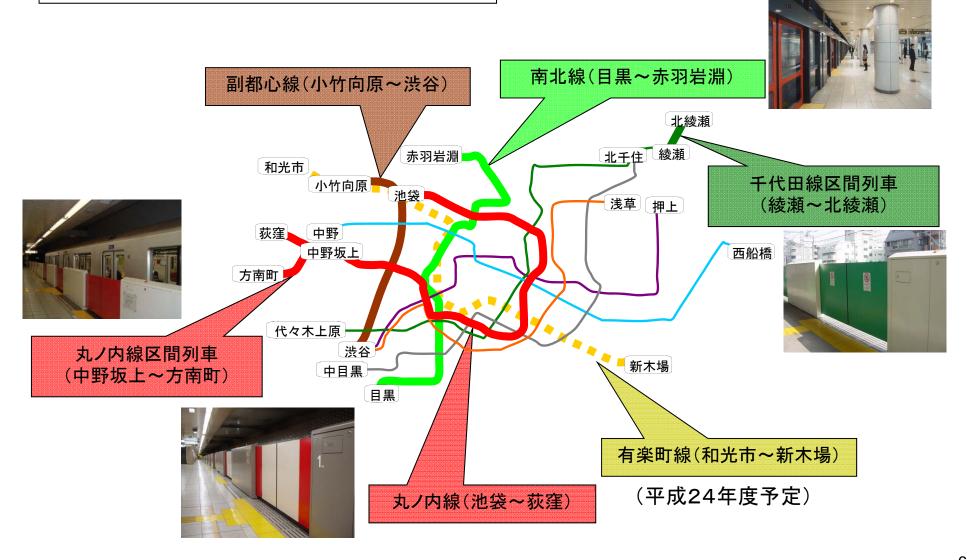
- ① 地上部の用地確保
- ② 歩道上設置における幅員の確保
- ③ 駅構内における設置スペースの確保・狭隘個所における旅客流動の確保
- ④ 設置費用の確保
- 5 維持管理費、老朽更新等費用の増加



可動式ホーム柵等整備の推移及び今後の展開

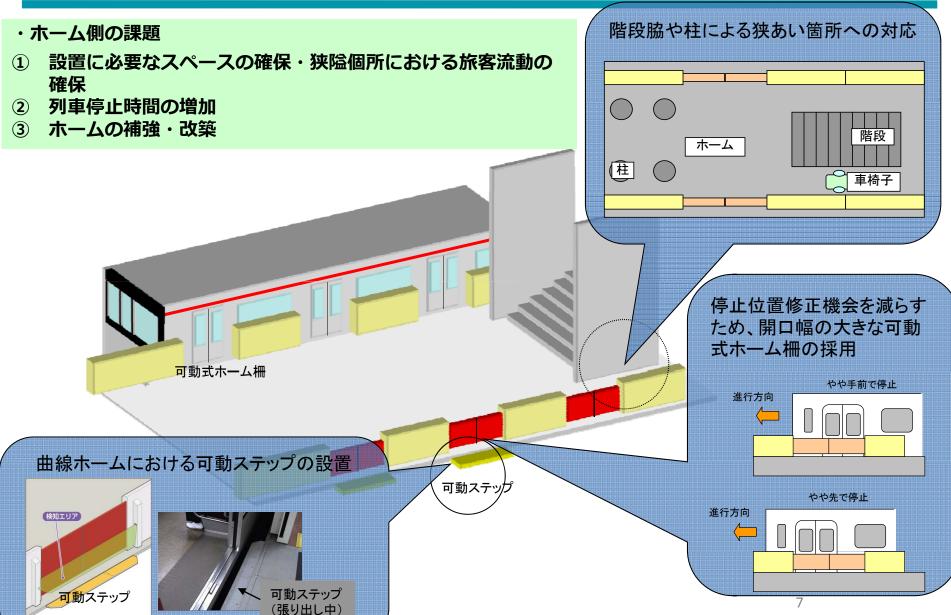


可動式ホーム柵等導入路線(計画も含む)



可動式ホーム柵整備上の主な課題



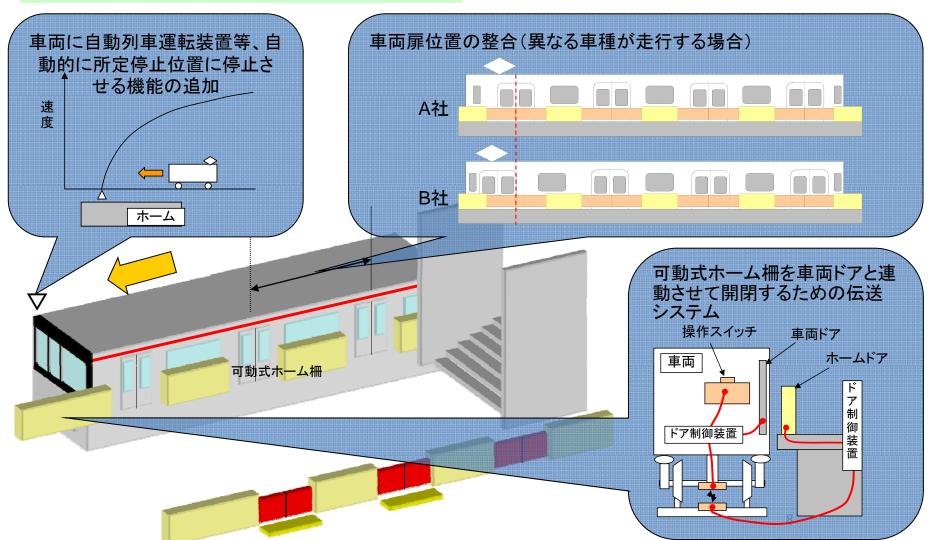


可動式ホーム柵整備上の主な課題



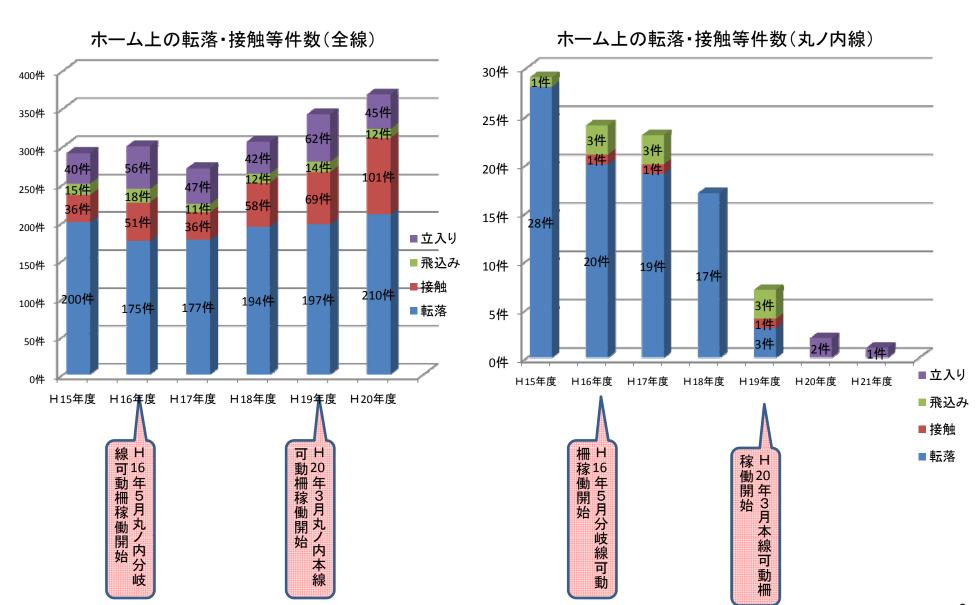
- ・車両側の課題
- ① 相互直通運転各社の車両扉位置の整合
- ② 車両停止精度の確保

- ・可動式ホーム柵整備の課題
- ① 設置費用の確保
- ② 維持管理費、老朽更新等費用の増加



【参考資料1】ホーム上の転落・接触等件数

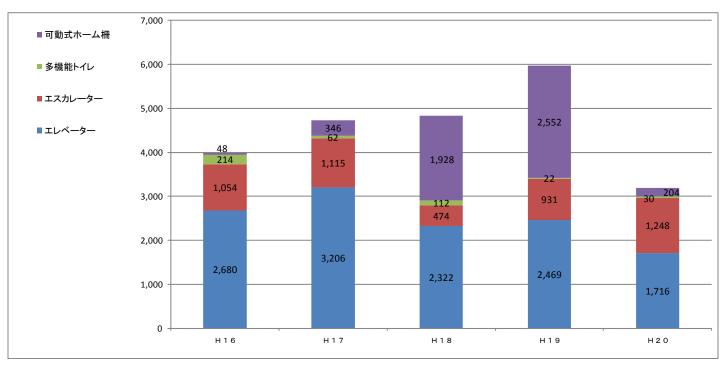




【参考資料2】バリアフリー設備整備投資額の推移



単位:百万円



	H16	H17	H18	H19	H20
エレベーター	2,680	3,206	2,322	2,469	1,716
エスカレーター	1,054	1,115	474	931	1,248
多機能トイレ	214	62	112	22	30
可動式ホーム柵	48	346	1,928	2,552	204
自動旅客案内装置	0	780	360	207	36
合計	3,998	5,512	5,198	6,184	3,235

【参考資料3】輸送人員と消費電力量の推移



